

一票一揆

(いっぴょういっき)

小泉前首相は「格差はいつの時代でもある」と言ったそうです。たしかに“上”と“下”の格差は必ず生まれるものですし、下層で貧乏でも幸せな人がいくらでもいることは誰もが知っています。



けれども「貧しくとも幸せ」というのは人が生きていく上で最低限の衣食住が保障され、かつ自由にものが言えるときに初めて言えることです。それさえ保障されていれば“上”の人達のこれ見よがしのぜいたくな生活にも、「どうぞ御勝手に、私は今とても幸せですから」と思うこともできます。

ところが今の日本はどうでしょう。医療、生活保護、老後、労働と様々な分野でその最低限の保障が自己責任の名の下に取り払われつつあります。“上”の人達が生き残りのために“下”の人達をより下に蹴落とそうとしています。

どんな党派、宗教、人物であろうと現実に政府を作っている勢力やその取り巻き達がいちばん“上”に位置し、世の中を支配しています。テレビを始めとするマスコミも結局は“上”の仲間です。彼らは“下”には落ちたくないのであの手この手でその権力を維持しようとしています。そのため格差は放っておくとひろがりそして固定化されます。江戸時代の「士農工商」などの身分制度が良い例です。



これに対し人々は多くの犠牲を払いながら様々な民主的な仕組みを築き上げてきました。そのひとつが「普通選挙」です。“上”の者の横暴を封じる民主主義最強の武器です。

このときばかりは“上”も“下”もありません。みんな平等に1票を持っています。そして“下”の持つ票数の方が圧倒的に多いはずです。

かつてこの国では幕府や藩主の圧政に百姓達は命をかけて一揆(いっき)をおこしました。しかし鎌(かま)や鋤(くわ)では“上”を倒すことはできませんでした。首謀者はみせしめのため獄門(ごくもん)や磔(はりつけ)にされました。でも今の私たちには一票があります。誰に投票したかは自分にしかわからないし、そのことで命を取られることもありません。

このかけがえのない一票を行使して、格差を固定し広げようとする政府なんぞは転覆(てんぷく)させてやりましょう!

“下”を蹴落とし、“下”をないがしろにして自分だけ生き残ろうとする首長や議員はその首をすげ替えてやりましょう!